



第7回 論語指導士 小池一博（第百四十一号） 東京都

こども達へのスポーツ指導を中心に「ヴィルトゥススポーツクラブ」を運営しています。ヴィルトゥスとはラテン語で「徳」を意味します。

こども達に知っていてほしい論語のことばとして、下記を伝えました。

「子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。（衛霊公第十五）」
～恕とは思いやりや優しさ。自分が嫌だと思ふことは、人にやってはいけません。～

3月にはマスクやトイレットペーパーの買い締めの様な事態が起きました。その後、医療従事者やそのご家族に対する差別が起きました。ウイルスは目に見えないものであり、連日のニュースでも新型コロナウイルスに関する不安は高まります。

現代は情報過多な社会です。テレビや新聞のみならず、SNSなどの普及により、自ら求めなくても情報が入ってきます。情報を全て受け止めて自らの不安を大きくさせていくのではなく、情報を取捨選択していくことは、現代に生きる我々に必要な能力であることは間違いありません。

では、そのような情報を選択する、情報を捨てていくための能力に必要な要素は何でしょうか？

もちろん最低限の知識は必要ではあるものの、自らが限られた知識しか持っていないことであること、受け取る情報もまた同じ状況であることを理解していれば、それは「恕」であると考えます。

我々のスポーツクラブでも、コロナ渦の中でもこども達が成長するためにYouTube ライブやZoomを活用したオンラインで繋がってきました。子ども達1人1人にマスクを送付したり、みんなで共創するために動画をつくったりもしました。全ての家庭に100%満足できる対応ができたとは思っていませんが、運営していくにあたって大切にしたのは「恕」です。こども達やその保護者の方に対する想いを行動規範としました。

他者を慮り、思いやりと優しさという内面から湧き出る情愛を大切に、判断し、決断し、行動していくことが、現代を生きる上でも重要であると考え、スポーツを通してこども達に伝えてやりたいと考えます。

長くなりました。皆さまの健康と、コロナの終息を心より祈っています。



「加地伸行からの百字答礼」

小池一博様へ。

人間は基本的には動物です。本能的に自分が生き残ること第一。そこから、他者を排除しようとしています。家族以外。

それを乗り越えようとするのが、他者への思いやりです。儒教では、それを「恕」としました。名言です。